令和８年度第２回学校運営協議会議事録

日時　令和８年 10 月 31 日

時間　15:45～16:45

（出席者　敬称略）

【委員】

（出席者）

◯内川　隆　　（本校同窓会長）

◯佐藤　吏里　（横浜市青葉区こども家庭支援課　学校連携・こども担当課長）

◯鈴木　秀幸　（青葉区市ケ尾町在住）

◯小林　紀知　（SOLIZE Holdings 株式会社　Sustainable Creativity Lab 所長）

◯飯島　正徳　（東京都市大学理工学部自然科学科教授）

◯河原　克宣　（桐蔭横浜大学スポーツ科学部客員教授）

◯野呂　隆　　（あおば支援学校長）

（欠席者）

◯濱部　剛　　（横浜市立市ケ尾中学校長）

◯長濵　洋二　（本校 PTA 会長）

◯富澤　桂子　（本校校長）

【事務局】

（出席者）

●濵川　剛行　（本校副校長）

●坂本　和啓　（同　教頭）

●岩村　美津子（同　事務長）

●相山　真二　（同　学校運営協議会担当）

●清水　洋行　（同　学校運営協議会担当）

（欠席者）

●小林　聖　　（同　学校運営協議会担当）

【本校各グループリーダー】

（出席者）

●好田　寛子　（本校　カリキュラム開発グループリーダー）

●本屋敷　隆裕（同　　キャリア支援グループリーダー）

●冠野　由紀子（同　　生徒会支援グループリーダー）

●佐久間　健三（同　　生徒指導グループリーダー）

●木村　秀樹　（同　　管理運営グループリーダー）

●中村　洋行　（同　　地域連携・広報グループリーダー）

（欠席者）

なし

１委員紹介

２会長挨拶

３校長挨拶・本校関係職員紹介

４報告・協議事項《〇委員、●学校》

（１） 部会の報告について（各部会長）
学校評価部会長より
〇資料１に基づいて　令和８年７月に行った「生徒による授業評価」の結果で９割以上の肯定的な評価を得ることができた。
質問によっては９割後半の評価を得ており、頭打ちの状況になっている。これ以上良くなることは満点に近くなる故なかなか難しいのではないか。時系列の変化を見ていくことや数字の意味付け・質問内容自体を学校独自で変えていくような工夫が必要ではないか。そのうえで市ケ尾高校の良さが伝わる評価をするべきである。回答率の高さはとても素晴らしく、日頃から先生方の生徒に対する熱意と努力が伺える。
・質問
〇頭打ちの状況という話だが今後の学校の対応はどう考えているか。
●授業評価は継続して行っていく。と同時に学校独自のアンケートも実施していきたいと考える。ワーキンググループや教科で適宜話し合う機会を設け、分析し適切な質問を加えていく。
●本校は県の授業改善としての指定校として充てられており、今度公開研究授業も控えている。本校だけ討議を行うと教員目線でなかなか気がつかないところも出てくるため、積極的に他校の先生のご意見や過去の取り組みも視野に入れて授業改善に取り組んでいきたい。
　また、ワーキンググループの目標としてアンケート質問６の項目を３％上げるためにどのように取り組むべきかを話し合っている。90％を取っている教科もあるが 80％台の教科もあるため、頭打ちの状態ではあるが３％の向上を目指す。
〇高い評価を得るために各教科または学校全体で何か工夫していることはあるか。
●率先した授業改善やワーキンググループを発足したり、教科会で分析し手立てを考えたりし、至らなかった点を省みて、組織一丸に取り組んでいる結果だと考える。

地域協働部会長より
〇資料２にあるようにあおば支援学校との連携など、社会の一員として素質や意識の向上を学べる機会を大切にする。多様な人と触れ合い、「生き方」を学ぶ。
　本校ジャグリング部が支援学校の生徒たちとダンス活動を通して交流を行ったが、ぜひ

要望としては夏祭りのボランティア企画の段階から本校生徒に参加してもらい、毎年同じことになりがちなイベントも、新たにこんなことをやったら楽しいな・できたらいいなといったアイディアをいただきたい。また、そういった活動を知ってもらうべく、参加した生徒たちの声が聴けるよう本校で発表の場を作ってほしい。

地域で交流することで、防災など有事の際に連携が取れる。自分たちの生活にかかわっている区役所についても知らないことが多くあると思われるため今以上に関わりを持てればと思う。

●昨年度ではグリーンエキスポで青葉区にある３校の生徒会役員を中心として広報に携わり、どのようにPRすると良いかグループに分かれて話し合い動画も作成した。今年度は学校の中でどのようなPRが効果的なのか。そういったイベントがあると今までにない新しい地域との連携ができると思う。

○先日おこなわれたあおば支援学校の拡大学校運営協議会について

年５回学校協議会があり、なかでも熟議といって昼から体育館に保護者や教員、地域の人を集めてテーマ（教育課程・防災・子どもたちにどんな力をつけたいか）ごとに討論した。立場が違う人たちが同じテーマについて意見を言い合う。地域と学校が一緒に取り組めることがとても有意義であった。出た意見から「今すぐできること」と「令和９年以降にできること」に分けて学校改善に取り組んでいる。

（２） 学校からの報告について（資料３）

１　進路状況について

●共通テストの申し込み数 346 名以上。生徒の状況が承諾ボタンを押されて初めて確認できるため、ボタンを押していない生徒が必要な科目を受けているのか心配である。

面接のある生徒に関しては希望のある場合に限り１，２週間前に面接の練習を行っている。

２　学校行事について

（１）修学旅行[２年生]

●先週の金曜日に帰ってきた。今年度は出発前に台風が発生し、13 年ぶりの台風 30 号が西に抜けず、沖縄を巻き込むように北上した。生憎３日目の体験学習が雨天によりできなかったことが残念である。また、現地でインフルエンザがでたため対応した。修学旅行後、学級閉鎖も起こったが少しずつ登校し徐々に平常に戻りつつある。

体験学習ができなかったがそのことで生徒から不平不満は出てこない。民泊に関しても概ね良かったようで結果として良い修学旅行だったのではないか。

（２）文化祭（白鷺祭）

●今年は昨年より一週間遅く、９月 12・13 日に行われた。天候があまりよくはなかったが延期にならずに決行できた。１学年では「行事を盛り上げるには」とテーマを決めて学習に取り組んだ。あまりにも来場者が多く、自分たちが楽しめる時間が無くなってしまったとい

う意見もあがった。
　文化祭で最も良かったクラスを毎年決めているが、今年は青葉区の選挙管理委員の協力を得て選挙箱を用意し、本当の選挙のような形で投票してもらった。三年生は 18 歳になり選挙権を得るため、投票の練習ができたのではないかと感じた。
　町内会長にも文化祭のお知らせの手紙を持って回ったが、皆さん楽しみにしていられるようで地域に温かく受け入れられているのだと感じた。今後も地域とは連携してやっていきたい。

３　学校広報活動について
（１）　オープンスクール
●本日のオープンスクールでは、3・4 時間目の授業が公開されており保護者や受験生に参観いただき、そのあと部活動の体験や見学を行った。受付の手伝いを本校の広報委員会の生徒が担当した。10 時 30 分より受付だったが、それより前に多くの方が並んでいた。
（２）　部活動体験会
●部活動体験については好成績を残した野球部やサッカー部などなるべく多くの部活動を体験・見学してもらうために、部活動ごとに体験・見学日を設定し申し込みをしてもらった。
（３）　第 2 回学校説明会
●第 2 回学校説明会は本校で行う。本校中央にあるポニーの丘で吹奏楽部・バトン部の発表を見ていただき、そのあと相談コーナーを設けて入試に関する相談に対応する。
広報委員の生徒に説明をしてもらうことで、よくある固い学校説明会ではなくなる。
（４）　平日の学校見学
●平日の学校見学では、部活動や広報委員の生徒が学校を案内し、そのあとアンケートに答えてもらっている。回答には「最初は人前で話すなどあまり乗り気ではなかったものの、案内をしているうちに普段見ることのない部活や教室を説明し新しい学校の姿を知ることができた。」といったものも見られた。

４　生徒の状況について
（１）　教育相談
●SC・SSW は週に一回出勤していただいている状況。昨年度に比べて相談件数は減っているがそれが良いことなのかどうかはまだわからない。
（２）部活動
●好成績を残した野球部をはじめ全国大会に出場した陸上部、サッカー部などグラウンド部活は一生懸命頑張っている。体育館部活も体育館が使えない中練習に励んでおり、来年度の成績に期待する。運動部文化部ともども刺激し合っていければよいと考える。
●バトン部も幕張メッセで行われる全国大会に出ることになっている。演劇部もレベルの高い横浜市の大会で入賞し県大会に出場を決めた。

・質問
●体育館が使えない件に関して、昨年の 11 月から改修工事を行ってきたがようやく終了の見込みがたった。完成次第体育の授業や部活動で利用していく。
○卒業式は体育館で行えそうか。
●行える。外部のホールを予約していたがまもなくキャンセルする。
○野球部をはじめ部活動が強くなったことで学校の宣伝となるのはいいことだ。
○教育相談が昨年より減っているのはなぜか。
●なぜ減ったのかに関しては担任がすすめても相談に行かないケースや、そもそも困り感が少なく生徒が満足しているケースが考えられる。他校に比べたら相談件数は少ない。
○修学旅行に関して、平和学習では何を行ったのか
●平和記念公園を訪れたのとひめゆりの塔の資料館に行った。ひめゆりの塔については事前学習として修学旅行前に映画を見ており、より生徒の理解が深まったように感じる。

５　その他
○授業評価アンケートに関して、アンケートは何のためにやっているかが重要。アンケートの結果が飽和している上で３％を上げるのは結構大変ではないか。したがって３％を上げることに固執せずにこの結果を維持することを目標に、指導力向上がわかるような質問項目を加えた方がよいのではないか。また、他校の結果も気になる。進学校のアンケート結果は果たして比例するのだろうか。そうでなければアンケートの結果はそこまで注目する必要もないのではないか。
○進学実績なのか主体的に学ぶ生徒を増やすのかそういった目標に対しての取り組みや繋がりが見てわかるようになると良い。アンケートの結果は、生徒が学校の取り組みをどう見ているかが反映されているので自己肯定感の高さはとてもいい傾向だと感じる。
○若い世代の子供たちに未来を作っていってもらうべく今後も一層地域との連携を高めていただきたい。

以上